＜つくばセンターのやさしさ＞を考えるための探索調査

筑波技術短期大学デザイン学科
安田輝男

要旨：福祉宣言都市・つくば市の玄関である＜つくばセンターのやさしさ＞を、施設関連および情報関連について探索調査してみた。その結果、施設関連については点字ブロック等の整備をはじめとする視覚障害者向け施設の一層の充実。情報関連については、サイン・標識の充実や広報的情報発信の充実等が望まれる。また、情報補償や介助サービスに関してマンパワーによるサービス向上も望まれる。当探索調査を踏まえ、今後は詳細な調査分析を進めて、さらに将来への展望について具体的に考えてみたい。
キーワード：障害、やさしさ、バリアフリー、ユニバーサルデザイン、共用品

１．はじめに

＜バリアフリー＞、＜ユニバーサルデザイン＞というキーワードが､近年きわめて高い頻度で登場しているが、果たして、われわれが日常生活している公共的な空間施設で、どれほどそれが実現しているのであろうか。筆者は先年、パラリンピックでも話題となった長野冬期オリンピックの仕事で、かの長野の地を訪れたとき愕然とする体験をした。

長野市内の歩道には視覚障害者用の点字ブロックが整然と貼られ、白杖を使いながら一人の視覚障害者が元気よく闊歩し、われわれ一行を追い抜いて行った。われわれも、彼の後を歩いて行ったが、しばらく行くと、彼が道ばたに苦しそうにうずくまっていた。

それは、点字ブロックの上方に丁度人間の頭くらいの高さに飲食店の看板が斜めに突き出ていたため、彼の白杖ではその看板を感知することができず、もろに頭部に衝撃を受けたのであった。

以上のことは、極端な例ではあるが、いかにハード的に＜バリアフリー＞に配慮しても、その施設に人間の心がついて行かなければかえってアダになることもあるということを如実に示している.

つくば市は、「福祉宣言都市」であり、「研究学園都市」である。そのつくば市の玄関である＜つくばセンター＞周辺において、＜バリアフリー＞や＜ユニバーサルデザイン＞が、どの程度達成されているか、言い換えれば人に優しい配慮が、どの程度なされているかを探索しながら概略調査してみた。

２．＜つくばセンター＞周辺の現地探索調査

＜バリアフリー＞、＜ユニバーサルデザイン＞の必要性は、障害をもった人々だけではない、高齢者、小さな子供連の親、お腹に赤ちゃんのいる妊婦などにも共通する。こうした観点から＜つくばセンター＞周辺の探索による概略の調査を行った。

①バスの乗り継ぎ情報

バスの乗り継ぎ情報に関しては、案内所がありバス路線図や目的地別バス発着時刻表が提供されている。車椅子使用も特に支障がないようであるし、聴覚障害者にとっての乗車券の購入もさして支障がないようである。但し、視覚障害者の場合は、バス停に点字表示のあるのは１番乗り場（筑波技術短期大学視覚部へ行く場合利用）のみであり、しかも視覚障害者用の点字ブロックがまったく整備されていないので、基本的には補助者の同行が必要である。今後の整備が望まれる。

1たった一ケ所のバス停の点字表示

②バスを降りてからつくばセンター周辺の目的地へ徒歩等でアクセスする場合

バス案内所で、つくばセンター周辺の総合案内を求めたところ、「つくばインフォメーションセンター」の紹介があった。ホテル等で確認しながら、「つくばインフォメーションセンター」をめざしたが、到達するまでには、ちょっとした試行錯誤を体験した。

はじめてつくばセンターを訪れる一般の健常者にとっ

ても、つくばセンター周辺はわかりにくいので、情報補償を必要とする障害者にとってはさらにわかりにくいであろう。サイン計画等を再検討して、わかりやすいやさしいつくばセンターにすることが望まれる。

③道路工事等に際して‘やさしさ’をいかに確保するか。

常磐新線の工事により、長期的に簡易歩道、簡易歩道橋等が設置されているが、この場合、視覚障害者や車椅子使用者にとって、かなり困難な状況となっている。

例えば、短時日で簡易歩道が変更されるようなケースもあり、健常者でも通行に戸惑いを感じることもある。簡易歩道橋では、勾配が急になったり、坂がゆるやかな曲線ではなく直線になったりしているので、車椅子ではかなりの負担がかかると思われる。

道路工事などで、‘やさしさ’をいかに確保していくかは今後の課題であろう。

④車椅子へのやさしさ

（財）つくば都市交通センター発行の「つマップ」によればつくばセンター周辺の23の施設における車椅子に配慮されたエレベーターは20、車椅子に配慮されたトイレは19、車椅子に配慮された駐車スペースは９、車椅子に配慮された公衆電話は22となっている。

駐車スペース以外は、数字的には高い比率を示しているが、例えば自動開閉で運転されているエレベーターの場合、ドアの開閉のタイミングまで、車椅子操作の時間に配慮されているかどうかも、今後は考慮の対象として考えられよう。

また、車椅子のための待合い室などの整備も考えられようし、一歩進んで、自動車椅子の無料貸し出しも望まれる。

⑤共用品・ユニバーサルデザインへ発展

例えば、車椅子に配慮されたエレベーターの場合、健常者用操作ボタンと、車椅子用操作ボタンの二つのタイプが併設されているが、これを一つにまとめて、健常者でも、障害者でも、大人でも子供でも誰にでも操作しやすいボタンを、操作しやすい位地に配備することは可能であろう。そうすることにより、いかにも障害者用に配慮しているというイメージが払拭される。これこそ文字どおり共用品であり、ユニバーサルデザインである。

2車椅子と健常者用押しボタンが併設されている例

⑥店舗等のやさしさ

デパート、スーパーなど、いくつかの店舗を取材してみたら、視覚障害者の場合は、店員が介助して店内を案内するとのことであり、聴覚障害者の場合は、初歩の手話ができる店員が応対したり、複雑なコミュニケーションをとる場合は、筆談を行うとのことであった.

また、障害者の客がどのくらいの頻度で訪れるかの実数は正確には把握されていないので、つくばセンター周辺へ訪れる障害を持った人々の障害の種類と実数を把握し、さらにやさしいつくばセンター実現のための指針にする必要がある。

3ベビーカー、車椅子置場の表示

３．今後改良が望まれる点

今回の探索調査により、＜つくばセンター＞のやさしさを、さらに発展させるための改良点を以下にあげる。

[施設関連]

①バスセンター乗り場における点字ブロックの設置

現時点では、まったく点字ブロックが設置されていないので、視覚に障害者のある人の独立歩行ができない。早急に点字ブロックの整備が望まれる。

②つくばセンター周辺の歩道の点字ブロックの整備

特に駐車場の出入り口等により点字ブロックの多くが途中で切断されている。これでは視覚障害者の安全な歩行が保障されないので、点字ブロックの連続性をもたせる改修工事が必要である。

4途中で切断されている点字ブロックの例

③視覚障害者向けの音響信号機の増設

点字ブロックの整備と合わせて、交差点における音響信号機の大幅な増設が望まれる。現在、かなりの数の交差点がまだ音響信号機が設置されていないままの状態である。

④「おむつ取り替え所」等の整備

妊婦への配慮として、バスセンター等での「おむつ取り替え所」の設置等も望まれる。

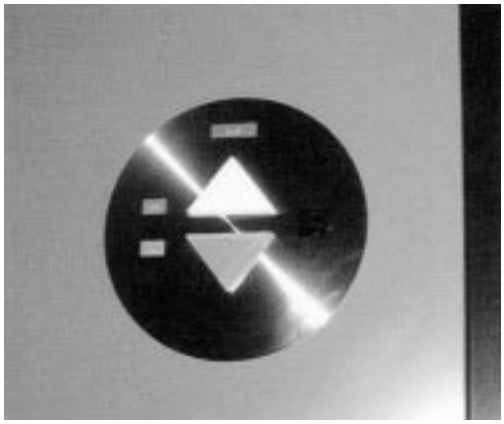
5「おむつ替えできます」の表示（「闊歩マップ」より）

⑤誰にでも使える券買機等の開発設置

車椅子使用者・視覚障害者ら健常者まで、誰にも使いやすい券売機の設置が望まれる。もしくはチケットのカード化により、使いやすさをさらに促進することも考えられよう。また、誰にでも使える自動販売機等の開発設置も望まれる。

⑥押しボタン等を大きく使いやすく

エレベーターや券売機等の押しボタンを大きくすることにより、小さな子供、身体の不自由な人、そして高齢者まで、誰もが快適に使えることができよう。



6使いやすい大きなボタンの例（「闊歩マップ」より）

⑦共用品への展望

前述のエレベーター内の操作ボタンの統一、ボタンを大きく使いやすくすることは結果として、共用品、ユニバーサルデザインの開発につながる。

[情報関連]

①視覚障害者向の点字マップの設置等現地案内板の充実

案内板に点字がほどこされているものは散見されるが、本格的な点字マップが設置されていないので、その設置が望まれる。

②サイン・標識の充実

案内板、案内マップ等を拠り所として、目的地を探す場合も、現在よりもよりわかりやすいサインや標識が必要と思われる。また、つくば市は国際学術会議等で海外からの訪問者も多いので、視覚言語としてのサインや標識のユニバーサルデザインの開発も視野に入れて考える必要があろう。

③カラーを上手に使った動線デザイン

例えば車椅子ロード、あるいは行き先別に歩道にカラーの帯をつけたりして、動線が明確にわかるようなデザイン設計が望まれる。

④点字ブロックを情報発信の基地に

点字ブロック利用者が白杖により、点字ブロックから様々な情報が得られれば、一段と街を闊歩できることになろう。

⑤インターネットや情報誌による情報発信の活発化

つくばセンター周辺の交通環境情報等に関し、インターネットや情報誌での情報発信をさらに充実させることが望ましい.

⑥情報補償や介助人員の配備

案内所、切符売り場、乗降口等に様々な情報補償や介

助を支援する案内スタッフの配置が望まれる。
⑦乗務員・従業員の啓蒙教育
　バス乗務員や各種店舗従業員への啓蒙教育を行い、情報補償や介助サービスの向上が望まれる。

[工事中のやさしさをどう確保するか]
　公共施設等は、定期的に改修工事があり、また常盤新線の工事のように長期にわたって工事を継続する場合もある。こうした期間でも、バリアフリーは確保されなければならないので、取り外しが容易な簡易点字ブロック等の開発も必要であろう。また、工事情報を速やかに発信して、現場で利用者が困惑しないようにしなければならない。

４．おわりに
　今回は探索調査なので、その概略について調べてみた。今後は、さらに踏み込んで体系的に調査分析を行い、問題点の摘出、そして福祉宣言都市・つくば市にふさわしい将来への展望についてさらに具体的に考えてみたい。

参考文献・資料
１）㈱博報堂生活総合研究所：UNIVERSAL ACCESS MAP/KAPPO活歩マップ東京駅編,1999年
２）（財）つくば都市交通センター：つマップ,2000年
３）（財）つくば都市交通センター：つくばセンター地区における高齢社会に向けた環境の形成について,1999年
４）30センチの安全地帯刊行委員会：30センチの安全地帯,1998年

Pre-Research for study of Tsukuba Center as a Universal-Design City

YASUDA Teruo

Department of Design, Tsukuba College of Technology

Abstract: I have researched about Tsukuba Center, which is the front door of a welfare city "Tsukuba", specifically on the Universal Design of the public facilities and information. As a result, it is to be desired that complete public facilities, for example "Braille block", for visually handicapped persons, complete signs, marks and public information be implemented. Still more, manpower is necessary for information security and care service. Through this pre-research, I will research and analyze in detail, and study for the future.

Key Words: Handicap, Barrier free, Universal Design